

## 平成 29 年度「重点課題」募集要項

本学専任教員を対象に科学技術に関する研究課題を募集し、審査の上、研究費の配分を行います。研究費は法人予算のほか、文部科学省私立大学経常費補助金の援助を受けています。今回の募集(平成 29 年より研究開始)より、研究規模の拡大、さらなる活性化を目的とし、総合研究所の各部門にて「重点テーマ」を設定し、それに即した課題を「重点課題」として採択することとします。

尚、「重点課題」として採択された研究課題は、研究終了後に論文投稿、科研費等の外部公的資金への応募等の条件がありますので応募にあたりご留意願います。また、研究課題が総研課題として採択された研究者は、本研究所の研究所員となります。

- 【研究費】** 研究課題 1 件につき **1000 万円以内**、研究期間は **2 年(最大 500 万/年)** とする。
- ※ 研究代表者としての採択は、一研究者在職中 2 回までとする。なお、公平性を保つため、平成 29 年度研究課題の重点課題として採択されたものを 1 回目の採択と考える。
  - ※ 平成 29 年度以降に受けた重点課題に関連したテーマで科研費など公的外部資金を獲得した場合は、さらに 2 回の申請を認めることとする。(以後、同様の条件で申請を認める)

- 【申請と採択】** 申請期間：平成 28 年 11 月 1 日(火)～ 28 日(月)  
申請書提出先：研究推進部(総合研究所事務担当)  
◎採択結果は、平成 29 年 3 月中旬に通知する

### 【申請資格および申請上の注意】

- (1) 本学専任教員 **2 名以上** で応募すること。
- (2) 希望する部門を 1 つ選択し、1 件のみ申請可能とする。例えば第 1 部門と第 2 部門へ申請する等、重複の応募は認めない。また総合研究所の「一般研究課題」、「若手研究者・任期付研究者支援研究課題」への重複申請はできない。
- (3) 共同研究者としての参加は、研究遂行上必要な場合に限り、他の 1 研究課題のみ参加することが出来る。
- (4) 科学研究費など、学外の公的研究費と類似の研究課題名での申請も可能であるが、研究課題の重複申請とならないように、相違点を明確に記すこと。
- (5) 申請予算において、機械装置備品費の割合が 70% を超えることも可とする(1 年間の研究費に対する割合)が、研究計画遂行上必要なその他の費用(消耗品他)の出所を申請書に明記しておくこと。また、算定の結果、減額され、機械装置備品の購入が不可能となった場合の対応についても申請書に明記しておくこと。
- (6) 研究代表者・共同研究者の内、本学専任教員は申請までに、CITI JAPAN プロジェクトの e ラーニングを受講していること。
- (7) 提出された申請書は、研究コーディネータに開示する。
- (8) 研究の目的(社会的な背景、解決すべき課題とその方法、社会に与える影響等)をより明確にすること。
- (9) 研究終了後に発表を予定している論文誌等の名称及び科研費等の外部資金への申請予定を記載すること。

### 【研究所員の義務】

総合研究所における研究成果については、関連分野の「学術研究論文誌」等に発表すること。

また、課題の研究期間終了後は、科研費等外部資金の獲得に向け申請準備をすること。

尚、採択された課題に関し、学内的には、次のような義務がある。

- (1) 研究成果発表会(総合研究所研究成果発表会)における発表(発表会において口頭発表を行うこと)
- (2) 研究成果報告書(総合研究所年報として刊行)の提出。
- (3) 研究課題自己評価報告書の提出。
- (4) 研究終了後 3 年以内に学術研究論文誌(査読付)への投稿・発表を行うこと。
- (5) 研究終了後 3 年以内に科研費等の外部資金獲得へ向け申請を行うこと。
- (6) 外部資金獲得後には、プロジェクト研究所設置へ向けて努力すること。

※論文誌等への投稿、科研費等の外部資金への申請時には総合研究所へ報告すること。

また、採択結果についても結果が判明次第、総合研究所へ報告すること。

## 【各部門における重点テーマ及びキーワード】

各部門における「重点テーマ」とそれに関するキーワードは下記のとおりです。申請にあたり、どのような課題をどのような観点から解決に向けて取り組むのかをわかりやすく研究計画申請書に記載して下さい。

### ◆ 第1部門 エネルギー・環境研究部門

#### 「循環型社会に向けた環境負荷低減につながる技術」

再生可能エネルギー、カーボンマネジメント、LED照明、低炭素技術、温暖化対策につながる技術開発、循環型社会の形成、リサイクル、環境汚染対策、革新型蓄電池開発、自動走行実証、新素材開発、風力・太陽光発電の発電量予測高度化・制御技術、火力発電の高効率化、CO2回収、FCV、水素

### ◆ 第2部門 生命・医工学研究部門

#### 「診断治療技術の低侵襲化および高性能・高機能化」

医療機器・装置（ハードウェア&ソフトウェア）、手術器具、医用材料（生体材料）、患者に優しい新規医療技術、バイオマーカー、放射線、ドラッグデリバリー、インプラント、人工臓器、再生臓器、組織細胞の部品化、低侵襲治療デバイス開発、生体機能シミュレーション、循環器系人工臓器システム

### ◆ 第3部門 情報研究部門

#### 「IoT時代に向けた、安全で快適な社会を実現するための技術」

IoT時代への対応、ICTによる社会課題解決、サイバー空間セキュリティ、ロボットやAIによる行動支援、医療・教育分野におけるICTの活用、ビッグデータの利用活用促進

### ◆ 第4部門 基盤工学研究部門

#### 「持続可能な社会を実現するための研究」

人口減少などの社会構造の変化、災害・社会インフラの老朽化などの課題に対応するロボット・ビッグデータ・AIによる省力化・効率化技術、社会・都市・建築・設備等のモニタリング技術、技術と社会の組み合わせによる課題解決に関する研究

### ◆ 第5部門 基礎科学研究部門

これまで提出されてきた研究課題に鑑み重点テーマとしての設定は現時点では行わず、従前どおり基礎研究の更なる発展のために支援を行うこととする。

※ 重点テーマとして取り上げてほしい旨の申請があった場合は、内容を精査して認める場合がある

## 【総合研究所研究費使用上の注意】

総合研究所研究費による出金の可否は以下のとおり。

詳細は、「研究活動についてのご案内および諸手続」を参照のこと。

出 金 可 能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械装置備品</li> <li>・学会参加費</li> <li>・備品修繕費</li> <li>・用品</li> <li>・旅費</li> <li>・謝金</li> <li>・消耗品</li> <li>・交通費</li> <li>・被験者謝礼</li> <li>・資料等印刷複写費</li> <li>・論文掲載料・別刷り代</li> <li>・運搬費</li> <li>・外国語添削代</li> </ul> <p>◎上記の他、研究課題申請書及び実施計画書に記載され、研究遂行上必要とみなされるもの</p>
出 金 不 可	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中古品の購入</li> <li>・アルバイト代（*）</li> <li>・当該研究課題の共同研究者への謝金</li> <li>・手土産代</li> <li>・懇親会費用</li> <li>・資格受験料</li> <li>・パスポート申請（更新）費用</li> <li>・保険料</li> </ul> <p>◎上記の他、研究課題申請書及び実施計画書に記載のないもの</p> <p>*新分野開拓研究課題は一部項目が異なります。詳細は新分野募集要項を確認願います。</p>